



# 『光技術—細胞』国際会議

## 数多くの成果確認

松 浜

二十日から浜松市内で開かれていた国際会議「生体

分子機構と光技術—細胞間コミュニケーション」(光

長らが記者会見し成果を報告した。

技術研究振興財団主催)が二十二日閉幕し、浜松市東伊場のグランドホテル浜松で、同財団の書馬輝夫理事

国際会議の成果を報告する書馬理事(右)ら。浜松市のグランドホテル浜松で

生体分子をテーマとした会議は三年ぶり二回目。欧米諸国の研究者ら百八十五人が参加し三十四人が研究成果を発表。最新の光技術を用いた測定では、生きた細胞のナノ(十億分の一)メートル単位での移動が映像で確認できた例などが報

告された。  
記者会見では東京大学の楠見明弘助教授が「ナノの単位で生体分子の動きが確認できるようになったのはここ一年ほど。非常にエキサイティングで研究者の間で共同研究の話も出ていた」と興奮した口調。書馬理事長は「今すぐ何ができるといえるものではないが、細胞間の情報交換の仕組みの研究は将来的には遺伝子治療など幅広い範囲での応用が期待できる。産業界も一体となって支援したい」などと述べた。